

(1) 地域の元気の創造

現状と課題

- 人口減少や高齢化の進行により、地域の精神的支柱である祭りや伝統芸能の担い手、後継者が不足するなど、地域の活力が減退しています。今後も地域の活力を維持するためには、地域資源^{※)}の活用や仕事の場づくり、伝統文化の継承など活力を生み出す取り組みが必要です。
- 宇佐神宮などの国宝、世界農業遺産^{※)}、ユネスコエコパーク^{※)}、日本ジオパーク^{※)}や日本遺産^{※)}などの観光資源、ブランド力を活用した地域の元気づくりが進んでいます。
- 2018年の国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭、ラグビーワールドカップ2019の開催を契機として、国内外観光客の評価もあり、地域の価値の再認識につながっています。今後も、地域文化、芸術・スポーツを通じた地域づくりが進むことが期待されています。
- 平成30年度までに全市町村で空き家等対策計画が策定され、空き家の利活用等についての取り組みが進んでいます。地域の元気創造のため、空き家や廃校などを交流拠点として生かしたコミュニティ維持、活性化に資する地域ぐるみの取り組みをさらに強化していくことが必要です。



ラグビーワールドカップに合わせた地域の魅力発信(源流太鼓)



空き家を活用した観光案内所

これからの基本方向

- 地域の様々な主体が行う、地域資源を活用した新たな取り組みへのきめ細かな支援を引き続き行います。また、近隣集落や近隣に居住する地域出身者等と連携した祭りや伝統芸能の保存・継承に取り組みます。
- 歴史や文化、地理、地質などの地域の特徴を生かしたブランド力による地域づくりを推進します。
- 芸術文化関係団体や施設、市町村等と連携して、芸術文化や町並み、歴史等を地域資源として活用し、優れた芸術文化の活動を展開することで、交流人口の増加や移住・定住につながるほか、国際スポーツ大会の事前キャンプや国内スポーツチームの合宿を活用した地域の活力づくりを推進します。
- 地域づくりに資する人材の育成・確保に市町村や関係機関と連携して取り組みます。
- 空き家の積極的な活用により魅力的な地域づくりを推進します。

主な取り組み

① 元気で活気あふれる地域づくりの推進

- 地域資源を活用したコミュニティビジネス^{※)}の構築など、地域経済活性化の取り組みの推進
- 関係人口^{※)}と連携した地域の祭りの広域開催や伝統芸能等の保存・継承の支援
- グリーンツーリズム^{※)}、ブルーツーリズム^{※)}など都市との交流による農山漁村の活性化
- 道の駅、里の駅、加工所、直売所などの機能充実や地域づくり団体との連携
- 地域課題の解決に向けたドローン^{※)}など先端技術の活用

② 特徴ある地域づくりの展開

- 国宝、世界農業遺産、ユネスコエコパーク、日本ジオパーク、日本遺産など、地域の文化、自然、歴史などの観光資源、ブランド力を生かした地域づくりと魅力の発信
- アートを活用した新たな地域コミュニティの創出など、芸術文化を生かした地域づくりの推進
- 国際スポーツ大会の事前キャンプ受入国やスポーツ合宿チームの受け入れを通じた地域振興の推進



「シチトウイ」の収穫体験を通じた世界農業遺産の魅力発信

③ 地域づくりの担い手の確保・育成

- 市町村や関係機関と連携した地域づくり人材の確保・育成
- おおいたツーリズム大学^{※)}を通じた地域づくり人材の育成とOB、OGとの連携
- 集落等のニーズを捉え、移住者や地域おこし協力隊^{※)}員、外国人等、多様な人材の新たな視点を活用した地域活性化への支援
- 地域特性に応じ、女性視点を生かした地域を支える取り組みへの支援及び人材育成
- 地域の伝統文化や自然を通じた住民の地域アイデンティティの確立への支援

④ 空き家を利活用した地域づくりの推進

- 長期滞在等の宿泊施設としての空き家の利活用を促進
- 空き家を活用した交流施設やお試し店舗など地域の賑わいづくりの創出

見直し委員から一言

古民家は外国人にとって魅力的であり、空き家の利活用という点でも重要です。



⑤ 地域に活力を生み出す経済基盤の安定と仕事づくり

- 県内6振興局ごとの特徴を生かした産業振興や仕事づくり

目標指標

| 指標名 | 年度 | 基準値 | H30年度 | | R6年度 |
|-------------------------|----|-----|-------|-------|-------|
| | | | 目標値 | 実績値 | 目標値 |
| 地域活力づくり取組件数(件・累計) | 26 | 645 | 1,052 | 1,065 | 1,800 |
| 空き家の利活用数(空き家バンクの活用数)(件) | 30 | 312 | - | 312 | 400 |

(2) 特徴ある地域づくり I 東部地域

現状と課題

- 東部地域では、地域の特性や瀬戸内気候の条件に合わせた第一次産業が営まれています。高年齢化率が県平均を大きく上回り、担い手不足が進行しつつあります。そのため、農林水産業の構造改革が喫緊の課題となっています。
- 国東半島には、独特の歴史・文化や現代アート、日本ジオパーク[※]に代表される自然や世界農業遺産[※]に認定された農林水産業等の豊かな地域資源[※]がありますが、観光や地域振興に生かしきれていません。また、増加する外国人観光客への対応も求められています。
- 人口減少が進む中、地域の課題解決に向けて、社会福祉協議会と連携した住民同士の支え合い活動などが始まっています。
- 東部地域では、「姫島 IT アイランド構想[※]」など、地域の特性を生かした企業活動が始まっています。



これからの基本方向

- 農地の流動化を推進し、水田の畑地化[※]による高収益作物等への転換を図るとともに、戦略品目[※]の生産と販路の拡大、経営感覚に優れた担い手の確保・育成を進めます。
- 搬出間伐[※]の推進や主伐[※]後の再造林[※]の徹底等により循環型林業の確立を図ります。
- 漁家の所得向上を図るために、浅海域の特性を生かした養殖業を振興します。
- 地域の文化や自然、産業、さらには、そこに住む人々のホスピタリティなどを結びつけ、総合力を高めることにより観光を推進するとともに、外国人観光客のニーズを踏まえたインバウンド[※]対策の強化を図ります。
- 伝統、文化、芸術、スポーツ等を生かした地域の活性化を図ります。
- 地域の課題の解決に向けたネットワーク・コミュニティ[※]の構築や移住・定住の促進を図ります。
- 進出企業のニーズに応じた的確なフォローアップの強化に取り組めます。

主な取り組み

① 時代の変化に対応する農林水産業の創出

- 農地中間管理事業[※]を活用した担い手への農地集積・集約化と、企業参入や就農学校[※]の拡充等による新たな担い手の確保・育成
- 基盤整備等を契機に水田農業経営者や集落営農[※]組織などを対象とした園芸品目等の導入による水田の畑地化を促進
- 既存農家や新規参入によるこねぎ、県オリジナルいちご「ベリーツ[※]」、ハウスみかん、しいたけ等の戦略品目の生産拡大
- 畜産における新規就農者の確保やクラスター事業[※]などを活用した肉用牛の増頭
- バジルやかぼす等食品関連企業と連携した品目やキウイフルーツ、オリーブ等の地域振興品目の生産拡大
- 循環型林業を実践する事業体の確保・育成と林業専用道等の路網[※]整備や施業集約化[※]による森林整備の推進
- 漁船漁業を補完するヒジキ養殖の生産拡大や地域の特産であるカキやクルマエビの養殖技術の高度化



生産拡大を目指すキウイフルーツ

② 地域資源を生かした観光の推進と地域の活力向上

- 欧米・大洋州をはじめとした外国人観光客の多様なニーズに対応できる別府観光の推進
- 「杵築城下町散策」、「国東おだやか博」、「ひじはく」をはじめとする滞在プログラムの充実
- 宿泊施設の多様化や滞在プログラムの充実など観光資源の磨き上げと効果的な情報発信による姫島観光の推進
- 六郷満山[※]文化、日本ジオパーク、世界農業遺産など特徴ある地域資源を生かした戦略的な誘客促進
- 地域の伝統や特徴ある文化、芸術等を生かした観光や地域振興の推進とサイクリング環境の整備等によるサイクルツーリズム[※]の促進
- 大分空港を生かした観光や地域産品等の情報発信と周辺の賑わいづくりへの支援



外国人観光客向け観光案内所 (ワンダーコンパス ベップ)

③ ネットワーク・コミュニティの構築と移住・定住の促進

- 先進的取組事例の普及などによる地域コミュニティ組織の立ち上げと持続的な活動の支援
- 空き家の活用や移住後の困りごと解決など市町村と連携した移住・定住の促進



地域住民の交流の場づくり (杵築市向野地区)

④ 進出企業へのフォローアップの強化

- IT 企業の受入環境の整備などによる企業活動の支援と大分空港の立地メリットを生かした企業誘致の促進
- 農林水産物等の地域資源を生かした企業活動の支援

(2) 特徴ある地域づくり II 中部地域

現状と課題

- 県内の各市町村から大分市への転出が続いており、管内の臼杵市、津久見市、由布市でもこの傾向が顕著となっています。一方、大分市では20代の若年層を中心に県外への流出がみられることから、働く場に加え、芸術、文化、スポーツの魅力を楽しむ・体験できるまちづくりが必要です。
- 東九州自動車道やフェリー航路などの交通網を活用した域内の観光振興や交流人口の拡大、また、増加傾向にある外国人観光客の取り込みが求められています。
- 大分市の施設園芸、関あじ関さばの一本釣り漁業、臼杵市の有機農業[※]や畑作農業、かぼすブリ・かぼすヒラマサの養殖、津久見市の柑橘類栽培や養殖マグロ、由布市のなし栽培や畜産業・林業など特色ある農林水産業を展開していますが、力強い経営体の育成と後継者の確保が課題となっています。
- 大分市臨海部の重化学工業、臼杵市の醸造業[※]及び造船業、津久見市の石灰・セメント産業、由布市の観光業など特色ある産業が立地しており、労働力人口が将来にわたり減少していく中で、必要な労働力を確保し、地域経済を活性化していくためには、若者を中心とする地元企業への就職と定住促進が不可欠です。



これからの基本方向

- 県立美術館や大分スポーツ公園等を活用した芸術、文化、スポーツの振興と、商店街、大分駅ビル等が集積する大分市中心市街地の賑わい創出により、活力ある魅力的なまちづくりを推進します。
- 地域自らが観光素材を磨くことでブランド力を向上させるとともに、戦略的な情報発信により国内外からの観光客の誘致を図ります。また、九州の東の玄関口としてのメリットを生かし、周辺地域と連携した広域観光を推進し、交流人口の増加につなげます。
- 農林水産業の新たな担い手の確保と、力強い経営体の育成を促進するとともに、安全・安心な農林水産物の生産振興、ブランド化、輸出の拡大、6次産業化[※]を推進します。
- それぞれの地域の製造業や観光業等の特色ある地場産業の強みを生かし、発展させるため、多様な人材を活用した後継者や技術者の育成等を進めます。

主な取り組み

① 芸術文化の創造性やスポーツの活力を生かした魅力あるまちづくりの実現

- 県立美術館や大分市美術館、商店街、大分駅ビル等との連携による大分市中心市街地の活性化
- アートや音楽を活用したまちなかの賑わいづくりの支援
- サイクリング環境の整備やサイクリングイベント開催の支援
- スポーツ合宿の誘致、スポーツ観戦者への観光や飲食等の情報発信



ゆふいん蓄音機音楽会

② 地域特性を生かした観光振興による交流人口の増加

- 国内外から人気の高い湯布院や、出張等のビジネス旅行者が多く来訪する大分市を起点とする広域観光の推進
- フェリー等を活用した地域間連携事業の推進
- グリーンツーリズム[※]等の体験型プログラムの拡充
- 関あじ関さばや臼杵のふぐ、津久見のまぐろ等の食による魅力アップ
- 地域が主体となって行う商品開発や販路開拓の支援



保戸島の食の祭典
[VICOLO保戸島つまみ食い路地]

③ 地域の特徴を生かした力強い経営体の育成と地域ブランドの確立

- 人口と企業が集中する都市近郊型の特徴を生かした農業への企業参入の促進、就農学校[※]の拡充等によるUIターン[※]の受け入れ、佐賀関の一本釣り漁業等の若手後継者の確保・育成
- 農地中間管理事業[※]を活用した担い手への農地集積・集約化と水田の畑地化[※]による園芸品目等の導入促進
- にら、ピーマン、高糖度かんしょ、県オリジナルいちご「ベリーツ[※]」等園芸品目の産地拡大及び肉用牛の増頭
- 幅広い生産者の確保・育成による津久見みかんと庄内なし産地活性化の推進
- 大葉、みつば、いちご、茶等のGAP[※]認証の更新及び新規取得の拡大、大型堆肥センターを活用した有機JAS[※]認証農産物の生産振興
- 海岸部から中山間地にわたる地域特性と多様な農林水産物を生かした地域ブランドの育成・確立
- 養殖ブリや養殖マグロの生産・輸出の拡大、タチウオ等の地域水産物の消費拡大
- 循環型林業を実践する中核林業経営体[※]の確保・育成と木材加工流通施設等が連携したサプライチェーン[※]の構築



新規就農者の確保・育成によるピーマン産地の拡大

④ 特色ある地場産業を担う人材の確保・育成

- 市や関係機関と連携して移住・定住を促進し、特色ある地場産業を担う人材として確保・支援
- 園芸、水産、機械、電気・電子、観光等、地場産業と関係の深い教育機関との連携による人材育成

(2) 特徴ある地域づくり Ⅲ 南部地域

現状と課題

- 南部地域は、約 270km に及びリアス式海岸が続いており、県内で最も水産業の盛んな地域で、海面養殖業は、ブリ・ヒラメを主体に全国トップレベルにありますが、価格変動やコスト上昇などにより厳しい経営状況となっています。また、赤潮[※]の発生時期の変化や長期化の傾向がみられ、対策が必要です。
- 佐伯市の森林面積は約 78,000ha で県内最大の規模を有し、森林率 87% と県平均（約 71%）を大きく上回っており、全国屈指の大型製材工場を核に造林から製材品販売までの一貫した取り組みを全国に先駆けて推進していますが、今後見込まれる住宅需要の減少などへの対応が必要です。
- 農業は、温暖な気候に適した園芸品目が主として生産されていますが、高齢化に伴う担い手不足と出荷調整に係る労働力不足による生産体制の脆弱さが懸念されています。
- 東九州自動車道利用による観光入込客数はある程度期待できるものの、高速道路エリア外の交通量減少などにより、一部の観光施設で客数の落ち込みが見受けられます。
- 今後 30 年以内の発生確率が 70~80% 程度と高い南海トラフ地震への対策は喫緊の課題です。
- 管内の人口はここ数年、毎年約千人ずつ減少していることから、小規模集落対策が求められています。



これからの基本方向

- 基幹産業の養殖業を発展させるため、経営強化や赤潮対策等に取り組みます。
- 循環型林業を実践する中核林業経営体[※]の確保・育成や高品質乾燥材の供給体制の整備などに取り組みます。
- 農業生産体制の確立を図り、もうかる地域農業を展開します。
- 佐伯ならではの観光素材の発掘と磨き上げを通じた、入込客数の増加を図ります。
- 南海トラフ地震に対する防災力強化を図ります。

主な取り組み

① 全国トップレベルの養殖業の経営強化

- 養殖ブリ類[※]のフィレ[※]加工などによる輸出を含めた流通販売促進、生産コスト低減等による経営改善
- 養殖ヒラメの安全・安心の確保と成長促進技術の導入等による経営安定化
- 養殖クロマグロの生産と消費拡大
- 赤潮被害の監視体制強化や被害防止対策の推進
- 二枚貝の海域浄化能力による赤潮防除効果も期待したカキ類養殖の推進



赤潮防除効果も期待される一粒カキ(シングルシードオイスター)の養殖

② 循環型林業の推進と高品質乾燥材の安定供給体制の確立

- コンテナ苗の生産技術向上と施設整備による生産拡大
- ドローン[※]等の先端技術を活用した作業の省力化と循環型林業を実践する中核林業経営体の確保・育成
- 高性能林業機械[※]の導入と地形データ等を活用した路網[※]整備による木材生産力強化
- 原木集荷の効率化と高品質乾燥材の生産体制整備による製材工場の競争力強化



シカネットを運搬するドローン

③ もうかる農業生産体制の確立

- 県南の温暖な気候を生かした県オリジナルいちご「ベリーーツ[※]」などの団地化と生産工程分業化[※]による生産体制の確立
- 農地中間管理事業[※]を活用した担い手への農地集積・集約化や大規模団地の整備によるレモンなど果樹園地の再編と企業参入の促進
- 水田の畑地化[※]によるくりやにんにくなど園芸品目等の導入促進
- ヘルパー制度[※]の確立による、肉用牛経営体の強化
- 「佐伯市ファーマーズスクール[※]」による新規就農者の確保・育成



いちごの生産工程分業化(パッケージセンター)

④ 地域の自然、文化、食などを生かしたツーリズムの推進

- おもてなしの強化、観光施設の魅力アップ、周遊型観光の促進やインバウンド[※]への取り組みなど誘客の推進
- 佐伯寿司をはじめとする食と、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク[※]などの素材を組み合わせた新たなツーリズムの推進
- 佐伯港へのクルーズ船の誘致
- 遠隔操作ロボット「アバター[※]」による海上釣り堀体験など先端技術を活用した認知度向上による誘客



藤河内溪谷(祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク)

⑤ 九州一広い街・浦・里の安全・安心なまちづくり

- 佐伯市と連携した南海トラフ地震に備えた避難訓練の充実・強化の推進
- 高齢者等の困りごとなどを手助けする生活支援サービスなどを通じたネットワーク・コミュニティ[※]づくりを推進

(2) 特徴ある地域づくり IV 豊肥地域

現状と課題

- 豊肥地域は、県内で主要な農業地帯であり、夏秋野菜、花き、肉用牛、乾しいたけ等の有数な産地ですが、高齢化や後継者不足により農林業の担い手が減少しています。
- 豊かな自然に恵まれるとともに、伝統芸能・文化が継承されており、これらの地域の魅力に惹かれ工芸家や若手アーティストの移住が進んでいます。加えて日本ジオパーク[※]、ユネスコエコパーク[※]等の新たな観光資源が創出されています。
- 久住・直入地域は、炭酸泉の長湯温泉をはじめ多数の温泉に恵まれており、また、豊富な草資源を有する久住高原があります。これらの資源を産業に一層活用することが必要です。
- 中九州横断道路の整備が進み利便性が向上する一方、地域が単なる通過点となることがないよう取り組みを強化する必要があります。



これからの基本方向

- 農業経営の大規模化や6次産業化[※]による競争力のある農業経営体の育成を進めます。
- 供用開始される大蘇ダム用水の活用により、大野川上流地域の園芸産地化をさらに進めます。
- 水田の畑地化[※]や畑地の再編整備による園芸品目などの高収益作物の導入を推進します。
- 就農学校[※]や企業参入等による新たな担い手の確保に取り組みます。
- 循環型林業の確立と椎茸産地を支える担い手の確保・育成に取り組みます。
- 豊富な自然と食材等の地域資源[※]を生かした観光の振興を図ります。
- 県内でも有数の高原地帯の特徴を生かした観光や畜産の振興を図ります。
- 地域の伝統や文化、芸術、工芸などを生かし地域の活性化を図ります。
- 中九州横断道路を生かして、産業振興や人を呼び込む取り組みを推進します。

主な取り組み

① 競争に打ち勝つ農業経営体の育成と新たな担い手の確保

- 農地中間管理事業[※]を活用した担い手への農地集積・集約化やスマート農業[※]導入等による園芸・畜産の大規模経営体の育成
- 100 m～600 mの地域内の標高差を活用した特徴ある露地野菜の作期拡大と周年供給産地化
- 県立農業大学校や農林水産研究指導センター等と連携した人材育成の強化と生産技術の高度化
- 大蘇ダム関連の畑地かんがい施設（パイプライン）や土地改良区等が管理する農業用水路の計画的な整備・更新
- 畑地かんがい施設を活用したキャベツ、はくさい、にんじんなど露地野菜の生産拡大
- トマト、ピーマン、県オリジナルいちご「ベリーツ[※]」、花きなど施設園芸品目の生産拡大
- インキュベーションファーム[※]（就農学校）やファーマーズスクール[※]等を核とした新規就農者の確保・育成
- 広大な畑地や中九州横断道路延伸を生かした企業参入の推進
- さといも等園芸作物の導入や低コスト化による集落営農法人[※]の体質強化
- トマト・かぼすの箱詰やピーマン・高糖度かんしょの出荷調製など農業分野への障がい者就労の促進
- 肉用牛経営の規模拡大に向けたヘルパー組織やキャトルステーション[※]などの作業外部化の推進
- かんしょやさといも等の6次産業化や農商工連携の推進

② 山間地域の経済を支える林業の担い手の確保・育成

- 循環型林業を実践する中核林業経営体[※]の確保・育成と路網[※]整備や高性能林業機械[※]の導入等による主伐[※]生産性の向上
- 「しいたけ原基塾[※]」等による新規参入者の育成と重機等を用いた省力化栽培の推進
- 日本一の産地である乾しいたけの都市圏へ向けた消費拡大の推進



戦略品目「トマト」 戦略品目「ピーマン」

③ 豊かな地域資源を生かした新たな誘客促進

- ユネスコエコパークや日本ジオパークなどブランド力の活用
- 「道の駅」の機能強化と相互連携の推進
- トマトやスイートコーンなど地域の食材を生かした特色ある食観光の促進
- 久住あざみ台の活用など野外イベントの充実
- 東九州自動車道の開通及び中九州横断道路の延伸を生かした観光素材の磨き上げとPRの推進



祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク
大分県オフィシャルアーティスト「DRUM TAO」

④ 高原や温泉を活用した産業の振興

- 広大な牧野を活用した肉用牛放牧の推進
- 久住高原や温泉を活用したスポーツツーリズム・ヘルスツーリズム[※]の推進
- 観光資源である草地景観の維持に向けた野焼き等の取り組み支援

⑤ 郷土芸能や特産品など地域の特徴を生かした地域づくりの推進

- アーティスト等県内外からの移住者との連携による地域の活性化
- 郷土芸能・地域の祭りの継承・保全と観光素材としての磨き上げ
- サフラン[※]・ムラサキ[※]等の特徴ある作物を生かした地域づくりの支援



久住高原の放牧

(2) 特徴ある地域づくり V 西部地域

現状と課題

- 西部地域は、原木の取扱量が県全体の約6割を占め、その大部分を管内の製材工場や合板工場で消費するなど、一大林業・木材産業地帯を形成しています。管内の人工林の多くは伐期を迎え、伐採量が増加していますが、森林資源の循環利用のためには、再造林[※]や保育作業[※]を確実に行うなど適切な管理を進める必要があります。また、人口減少の中、製材品の国内需要の減少が懸念されます。
- 酪農は、飼養頭数、生乳出荷量が県内で最も多く、肉用牛は飼養頭数が県内で2番目となっていますが、ともに経営基盤が脆弱な農家が多いことから、今後も規模拡大等を視野に入れながら、生産性の向上や担い手の確保・育成に取り組むことが必要です。
- 地域の特色ある気候・風土を生かして、なし、トマト、すいか、白ネギ、はくさい、わさび、しいたけなどの生産が盛んですが、高齢化や人口減少が進んでおり、担い手の確保と産地規模の拡大に取り組むことが必要です。
- 雄大な自然、豊かな温泉、歴史・文化に彩られた町並み、四季を通じた祭りなどの魅力的な地域資源[※]に恵まれています。日帰り・通過型の観光となっている傾向があります。
- 人口減少が進み過疎地域等における集落機能の維持が課題になっています。



これからの基本方向

- 主伐[※]・再造林の徹底や保育作業の推進など循環型林業を推進するとともに、森林管理の担い手となる林業労働力の確保・育成を進めます。
- 機械の導入等により造林・保育作業の省力化やコスト削減に取り組むとともに、高品質な製材品の生産と需要の拡大に取り組みます。
- 生産性向上、経営効率化のため、牛舎環境の整備、飼料の低コスト化、堆肥利用の促進等を図っていきます。
- 酪農、肉用牛の経営体の規模拡大を推進するとともに、担い手の確保に向けた労働環境の改善を支援します。
- 水田の畑地化[※]による高収益作物等の導入や、農地集約等による経営規模拡大、農業参入企業の誘致等により、農業産出額の向上を目指します。
- 地域農産品のブランド力を向上し、輸出強化等による販路の拡大を図ります。
- 新規就農者の確保・育成を推進します。
- 自然や温泉、歴史と文化に彩られた町並みなど恵まれた地域資源に一層磨きをかけるとともに施設間の連携を図るなど、交流人口の拡大と滞在型観光を推進します。
- 集落機能を維持するためのネットワーク・コミュニティ[※]づくりを推進し、そこで暮らす人々が地域に誇りを持ち、いきいきと生活するための支援を行います。

主な取り組み

① 地域経済を支える林業・木材産業の振興

- 市町と連携した森林経営管理法に基づく森林整備システムの確立
- 循環型林業を実践する中核林業経営体[※]の確保・育成
- 林業専用道等の路網[※]整備による主伐生産性の向上とコンテナ苗やツリーシェルター[※]を用いた再造林、下刈の機械化等の促進による造林・保育作業の省力化の推進
- 合板工場や製材工場への原木の安定供給と製材品の新たな輸出先の開拓
- 産地の特色を生かしたしいたけやエノキ等の生産振興

② 飼養環境に恵まれた畜産の振興

- 経営基盤強化のため、堆肥利用による自給飼料生産の拡大と牛舎環境等の整備
- 労働環境改善のためヘルパー制度[※]の効果的な活用
- 肉用牛の生産基盤強化のため、キャトルステーション[※]設立を推進
- 大規模肥育経営体の域内繁殖肥育一貫生産の推進



原木の地産地消の拡大につながる合板工場

③ 地域の強みを生かした農業の振興

- 農地中間管理事業[※]を活用した担い手への農地集積・集約化と水田の畑地化による園芸品目等の導入促進
- にんにくの規模拡大と産地化の推進
- 市場の需要拡大に対応したわさびの生産拡大
- 高標高地を利用したトマトや白ねぎ、県オリジナルいちご「ベリーツ[※]」の生産拡大
- 生産の維持拡大に対応するための新規就農者の受入体制強化
- 日田なしブランドの強化に向けた大苗育苗[※]・流線型仕立[※]の普及と輸出拡大
- すいか若手生産者の育成強化とブランド確立支援
- 食品関連企業等の農業参入推進と参入企業の技術力向上



大規模酪農ロータリーパーラー

④ 地域の資源を生かした交流人口の拡大と滞在型観光の推進

- 天領日田や日本遺産[※]、豊後森機関庫等の歴史が生み出す魅力を生かした町歩きなどの域内回遊の仕組みづくり
- 国立公園や奥日田等の魅力あふれる大自然を活用した体験型観光の創出
- 夏の冷涼な気候と温（冷）泉等を生かしたスポーツ合宿の誘致などスポーツを通じた交流人口の拡大
- 筑後川水系の豊かな水環境に育まれたアユや屋形船等を活用した地域ブランドの構築



奥日田の自然を活用したアクティビティ

⑤ 集落機能を維持するためのネットワーク・コミュニティづくりの推進

- 地域の課題や困りごとを解決するための体制整備に対する支援
- 都市との交流等を通じた地域活性化に対する支援
- 市町や関係機関と連携した移住・定住の促進

(2) 特徴ある地域づくり VI 北部地域

現状と課題

- 北部地域は、県内最大の穀倉地帯を抱え、加えて、約500haの広大な干拓地があるほか、豊前海には日本三大干潟とも呼ばれる広大な干潟が広がっています。また、醸造会社をはじめとした地域密着の食品加工会社が多く立地しています。こうした地域資源[※]を生かし、第一次産業の振興を図っていくことが必要です。
- 製造業を中心に多くの事業所が立地し、特に自動車産業では、県内唯一の自動車メーカーの生産工場を核に集積が進んでいます。その一方で、多様な人材の確保・育成、コスト競争力や開発力の強化等が課題となっています。
- 貴重な歴史的遺産や文化的景観[※]に恵まれ、また、東九州自動車道の開通や世界農業遺産[※]、日本遺産[※]の認定等を契機として、広域的な観光振興の取り組みも始まっており、より戦略的な誘客対策が必要です。
- 人口減少による地域消滅への危機感が高まる中、仕事をつくり、人を呼び込み、まちの賑わいを取り戻そうと意欲的な若手リーダーや団体が育ってきています。



これからの基本方向

- 農業では米から高収益作物等への転換を進めるとともに、水稲作を継続する農家に対しては低コスト化や生産性向上を支援します。林業では主伐[※]・再造林[※]の徹底による循環型林業の確立を図ります。水産業では資源回復と養殖業の振興による豊前海漁業の再生に取り組みます。また、原料安定供給による食品加工産業の生産拡大と農林水産品の付加価値向上を図ります。
- 自動車産業等においては、技術力・企画開発力の強化に向けた取り組みの支援を行います。併せて、働きやすい環境づくりを進め、人材確保の円滑化を目指します。
- 地域の観光資源に一層の磨きをかけながら、「豊の国千年ロマン観光圏[※]」のブランド確立に努め、インバウンド[※]を含む交流人口の拡大や滞在時間の延長に結びつけます。
- 地域コミュニティの組織強化や、各市における移住・定住促進の取り組みを積極的に支援し、地域の活性化を後押しします。

主な取り組み

① 地域の特性を最大限に生かした第一次産業の振興と6次産業化[※]の推進

- 農地中間管理事業[※]を活用した担い手への農地集積・集約化や、基盤整備によるほ場の大区画化、スマート農業[※]への取り組みによる低コスト化等の推進
- 農家所得の向上に向けた水田の畑地化[※]による園芸品目等の導入と加工業務用野菜など新規品目の産地育成の推進
- こねぎ、ぶどう、なしの就農学校[※]や、県オリジナルいちご「ベリーツ[※]」、花き、しいたけのファーマーズスクール[※]、漁業学校[※]などの運営支援等による新規就業者の確保・育成
- 駅館川地区の農地再編整備等を契機とした企業参入によるワイン醸造用ぶどう、ドリンク用茶葉等大規模な園芸産地づくり
- 県域白ねぎ就農学校を活用した新規就農者の確保や生産拡大、高品質化による「大分白ねぎ」のブランド力強化
- シャインマスカット、ベリーツの生産拡大と品質向上
- 焼酎原料麦の品質向上・契約栽培の拡大及びそば、黒大豆、ハトムギ、ハモなど地域産品の加工品開発と販路拡大
- 肉用牛の増頭のための担い手の規模拡大や企業参入の推進、放牧での新規参入者の確保・育成
- 循環型林業を実践する中核林業経営体[※]の確保・育成と中津港を活用した原木の共同出荷等の推進
- ガザミ、アサリ等の水産資源の回復と、カキなど新たな養殖業の振興
- 温泉水を利用したドジョウの高密度養殖[※]など低コストな内水面養殖の振興



生産拡大中のシャインマスカット

② 集積する自動車関連企業のさらなる競争力強化に向けた支援

- 現場改善指導、コストマネジメント強化や九州域外から調達されている機能部品[※]などの受注機会拡大の支援
- 県立工科短期大学校、完成車メーカー、自動車関連企業等の連携によるものづくり人材の育成支援
- 外国人労働者の受け入れ、女性の活躍推進、子育て支援施策や働き方改革の推進等による労働力の確保・定着の支援

③ 地域固有の旅体験で人を呼び込む観光の振興

- 世界農業遺産、日本遺産等の歴史文化資源の磨き上げと観光ガイド養成、多言語対応など受入体制の強化
- 国東半島峯道ロングトレイル[※]、メイプル耶馬サイクリングロード、宿坊[※]体験、グリーンツーリズム[※]など、滞在時間の延長を狙った宿泊・体験型観光の振興
- 各市や「豊の国千年ロマン観光圏」など関係団体と連携し、六郷満山[※]文化等地域の観光資源を活用した広域周遊ルートの造成
- 長崎鼻エリアの現代アート群やメディアアート[※]等を活用したアートツーリズム[※]の推進



滞在型観光の拠点となる長崎鼻

④ 地域コミュニティの活性化に向けた取り組みの支援

- 都市や大学との地域交流の促進、空き家活用等の移住・定住促進策への支援
- 小規模集落における地域課題の解決や関係人口[※]を活用した取り組み等の支援
- おおいとツーリズム大学[※] 修了生のレベルアップや地域おこし協力隊[※] 員経験者の定着等による地域リーダーの養成
- 地域商品開発・販売拠点整備などを通じたコミュニティビジネス[※]の支援